

表－6 工事関係車両の運行状況に関する事後調査結果（工事中）

年度

調査月日 (曜日)	項目	工事関係車両の片道台数 (台/日)			備考
		大型車	小型車	合計	
月 日 ()	府道住吉八尾線(南港通)				1. 構内に入構する工事関係車両台数の計画値（最大時）は、932台/日である。 2. 調査頻度については、工事着工後3年間は1回/月、それ以降は1回/3ヶ月とする。
	主要地方道市道浜口南港線				
	市道住之江区第8905号線				
	構内入構台数				
月 日 ()	府道住吉八尾線(南港通)				
	主要地方道市道浜口南港線				
	市道住之江区第8905号線				
	構内入構台数				
月 日 ()	府道住吉八尾線(南港通)				
	主要地方道市道浜口南港線				
	市道住之江区第8905号線				
	構内入構台数				
月 日 ()	府道住吉八尾線(南港通)				
	主要地方道市道浜口南港線				
	市道住之江区第8905号線				
	構内入構台数				
月 日 ()	府道住吉八尾線(南港通)				
	主要地方道市道浜口南港線				
	市道住之江区第8905号線				
	構内入構台数				
月 日 ()	府道住吉八尾線(南港通)				
	主要地方道市道浜口南港線				
	市道住之江区第8905号線				
	構内入構台数				

表-7 工事中騒音・振動に関する事後調査結果（工事中）

1. 騒音

調査期間： 年 月 日（ ） 時～ 時

項目		測定値	調査地点
天候		—	
最多風向		—	
風速 (m/s)			
気温 (°C)			
湿度 (%)			
時間率 騒音レベル L_{A5} (デシベル)	調査地点①		
基準値 (デシベル)		85	

注：1. 測定値は、「騒音規制法に基づく第4条第1項の規定に基づく規制基準」（昭和61年大阪市告示第247号）に基づき、昼間の時間区分（8～18時）とする。

2. 「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（厚生省・建設省告示1号）に基づく規制基準を示す。

2. 振動

調査期間： 年 月 日（ ） 時～ 時

項目		測定値	調査地点
天候		—	
最多風向		—	
風速 (m/s)			
気温 (°C)			
湿度 (%)			
時間率 振動レベル L_{10} (デシベル)	調査地点①		
基準値 (デシベル)		75	

注：1. 測定値は、「振動規制法施行規則別表第2備考1及び2に基づく区域及び時間」（昭和61年大阪市告示第253号）に基づき、昼間（6～21時）とする。

2. 「振動規制法施行規則」（昭和51年総理府令第58号）に基づく特定建設作業の規制基準を示す。

3. 「<25」は、振動レベル計の測定下限である25デシベル未滿を示す。

表－8 工事排水水質に関する事後調査結果（工事中）

調査場所	項目	単位	計画値	調査日	海域に排出する仮設排水処理装置出口		
					排水量	浮遊物質質量 (SS)	
						日間平均	最大
					m ³ /日	mg/L	mg/L
—	70以下	90以下					
調査結果	年 月	1					
		2					
		3					
		4					
		5					
		6					
		7					
		8					
		9					
		10					
		11					
		12					
		13					
		14					
		15					
		16					
		17					
		18					
		19					
		20					
		21					
		22					
		23					
		24					
		25					
		26					
		27					
		28					
		29					
		30					
		31					
備考	1. 浮遊物質質量の値は、濁度との相関から、測定した濁度を浮遊物質質量に換算した値を示す。 2. 日間平均の数値は、仮設排水処理装置運転中における毎正時の値の平均値を示す。						

表－9(1) キンランに関する生育状況（工事中）

2026年度分

2026年度用

・移植日： 月 日（ ）

	生育状況		備考
移植前	写真添付（引き）	写真添付（寄り）	
移植後	写真添付（引き）	写真添付（寄り）	

表－9(2) キンランに関する生育状況（工事中）

年度分

2027年度以降用

調査日	移植後 経過期間	生育有無	生育状況		備 考
春季 月 日（ ）	年 ヶ月	有・無	写真添付（引き）	写真添付（寄り）	
夏季 月 日（ ）	年 ヶ月	有・無	写真添付（引き）	写真添付（寄り）	
秋季 月 日（ ）	年 ヶ月	有・無	写真添付（引き）	写真添付（寄り）	

表-10 産業廃棄物に関する事後調査結果（工事中）

年度分

(単位：トン)

種 類	発生量	有効利用量	有効利用方法	処分量	処分方法	備 考																																								
							実績	累積																																						
汚 泥	実績					1. 「実績」は当該年度の年間実績値を示し、「累積」は工事着工後の累計値を示す。 2. 環境影響評価書における工事中の産業廃棄物発生量等の予測量は、下表のとおりである。 (単位:トン) <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>発生量</th> <th>有効利用量</th> <th>処分量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚 泥</td> <td>247,780</td> <td>242,824</td> <td>4,956</td> </tr> <tr> <td>廃 油</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>540</td> <td>351</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>紙 く ず</td> <td>190</td> <td>190</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>木 く ず</td> <td>4,540</td> <td>3,859</td> <td>681</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>380</td> <td>342</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず</td> <td>230</td> <td>35</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td>2,080</td> <td>2,018</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>255,780</td> <td>249,659</td> <td>6,121</td> </tr> </tbody> </table>	種 類	発生量	有効利用量	処分量	汚 泥	247,780	242,824	4,956	廃 油	40	40	0	廃プラスチック類	540	351	189	紙 く ず	190	190	0	木 く ず	4,540	3,859	681	金属くず	380	342	38	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	230	35	195	がれき類	2,080	2,018	62	合 計	255,780	249,659	6,121
	種 類	発生量	有効利用量	処分量																																										
汚 泥	247,780	242,824	4,956																																											
廃 油	40	40	0																																											
廃プラスチック類	540	351	189																																											
紙 く ず	190	190	0																																											
木 く ず	4,540	3,859	681																																											
金属くず	380	342	38																																											
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	230	35	195																																											
がれき類	2,080	2,018	62																																											
合 計	255,780	249,659	6,121																																											
累積																																														
廃 油	実績																																													
	累積																																													
廃プラスチック類	実績																																													
	累積																																													
紙 く ず	実績																																													
	累積																																													
木 く ず	実績																																													
	累積																																													
金属くず	実績																																													
	累積																																													
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	実績																																													
	累積																																													
がれき類	実績																																													
	累積																																													
合 計	実績		—		—																																									
	累積																																													

表-11 窒素酸化物の排出状況に関する事後調査結果（供用時）

年度分

調査月	ユニット	1号機			2号機			3号機			発電所合計		
		項目	最大 排出濃度	最大 排出量	月間 総排出量	最大 排出濃度	最大 排出量	月間 総排出量	最大 排出濃度	最大 排出量	月間 総排出量	最大 排出量	月間 総排出量
		単位	ppm	m ³ _N /h	m ³ _N /月	ppm	m ³ _N /h	m ³ _N /月	ppm	m ³ _N /h	m ³ _N /月	m ³ _N /h	m ³ _N /月
		計画値	4	14.6	—	4	14.6	—	4	14.6	—	43.8	—
調査結果	4												
	5												
	6												
	7												
	8												
	9												
	10												
	11												
	12												
	1												
	2												
	3												
	年間												
備考	・最大排出濃度は、起動時を除く通常運用負荷帯におけるO ₂ 濃度16%換算値を示す。												

表－１２ 騒音・振動に関する事後調査結果（供用時）

1. 騒音

調査期間： 年 月 日 () 時～ 時

項目		朝	昼間	夕	夜間	調査地点
天候		—				
最多風向		—				
風速 (m/s)						
気温 (°C)						
湿度 (%)						
時間率 騒音レベル L_{A5} (デシベル)	調査地点①					
基準値 (デシベル)		60	65	60	55	

注：「騒音規制法に基づく第4条第1項の規定に基づく規制基準」（昭和61年大阪市告示第247号）に基づき、時間区分は、朝が6～8時、昼間が8～18時、夕が18～21時、夜間が21～翌日6時とし、基準値は、第3種区域の規制基準を示す。

2. 振動

調査期間： 年 月 日 () 時～ 時

項目		昼間	夜間	調査地点
天候		—		
最多風向		—		
風速 (m/s)				
気温 (°C)				
湿度 (%)				
時間率 振動レベル L_{10} (デシベル)	調査地点①			
基準値 (デシベル)		65	60	

注：1. 「振動規制法第4条第1項の規定に基づく規制基準」（昭和61年大阪市告示第251号）に基づき、時間区分は、昼間が6～21時、夜間が21～翌日6時とし、基準値は、第2種区域(I)の規制基準を示す。

2. 「<25」は、振動レベル計の測定下限である25デシベル未満を示す。

表－１３ 復水器出入口冷却水温度に関する事後調査結果（供用時）

年 月分

(単位：℃)

調査日	調査項目	復水器入口温度 (取水口)	復水器出口温度 (放水口)	復水器出入口最大温度差
	計画値	—	—	7℃以下
調査結果	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			

注：1時間値の最大の温度差が確認された時の値を記載。（最大温度差が複数見られた場合は、1ケースを記載）

表-14 産業廃棄物に関する事後調査結果（供用時）

年度分

(単位：トン)

	種 類	発生量	有効利用量	有効利用方法	処分量	処分方法	備 考	
調 査 結 果	汚 泥	実績					1. 「実績」は当該年度の年間実績値を示し、「累積」は工事着工後の累計値を示す。 2. 環境影響評価書における供用時の産業廃棄物発生量等の予測量は、下表のとおりである。 (単位:トン/年)	
		累積						
	廃 油	実績						
		累積						
	廃プラスチック類	実績						
		累積						
	木 く ず	実績						
		累積						
	金属くず	実績						
		累積						
	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	実績						
		累積						
	がれき類	実績						
		累積						
	合 計	実績			—			—
		累積						

種 類	発生量	有効利用量	処分量
汚 泥	105	101	4
廃 油	92	90	2
廃プラスチック類	84	76	8
木 く ず	10	9	1
金属くず	103	101	2
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	38	1	37
がれき類	30	29	1
合 計	462	407	55